

別添資料

1. シラバス
2. 教務課程
3. 履修モデル

授業科目名	個人差・オーダーメイド医療薬学特論 Advanced lecture on individual differences and personalized medicine				
単位数	1 単位	開講時間	木 5 前期(後半)	担当者	松永、中村(克)
<p>□■ 授業の目的・概要</p> <p>昔から「薬のさじ加減」と言われるように、薬の効き方（薬効）や副作用発現には個人差があることはよく知られている。薬物代謝を含めた薬物動態は多くの要因によって変動し、薬効や副作用の発現に多大なる影響を与えている。また、遺伝子解析が進み、その個人差の要因の1つとして薬物代謝酵素の遺伝子多型に由来することが明らかとなってきた。これら、個人差を考慮した医療がオーダーメイド医療と呼ばれており、副作用を少なくして効率よく治療を行うことが目的である。本講義を通して、個人差の要因を理解し、それに対応できる医療人並びに創薬研究者の育成を目的とする。</p>					
<p>□■ 学習到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬物動態の個人差について説明できる 2) 個人差の要因について説明できる 3) 遺伝子多型について説明できる 4) オーダーメイド医療について説明できる 5) オーダーメイド医療の必要性について説明できる 					
<p>□■ 授業概要</p> <p>薬効や副作用発現における個人差の要因について概説し、最新の医療におけるオーダーメイド医療の実情を紹介して今後のあり方について考察する。さらに、オーダーメイド医療を病院や薬局で実践したり、考慮したりしなければならない課題に対応するために必要な知識や能力とそれを修得するための方策について考察・討論する。</p> <p>本講義は、主に講義形式で行うが、課題に対し小グループによる討論を行い、グループ討論の結果を発表することも計画している。</p>					
<p>□■ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬物動態と薬効・毒性 2) 生後発達、加齢に伴う変動 3) 個人差と性差 4) 妊娠に伴う変動 5) 病態時における変動 6) 食餌や嗜好品による変動 7) 遺伝子多型と薬効・毒性 8) 人種差（民族差） 9) オーダーメイド医療の実際と今後 					
成績判定基準	平常点（20%）、レポート（80%）				
教科書・テキスト	適宜 資料を配布する。				
参考文献	薬物代謝学 第3版（東京化学同人）				
履修要件					
履修上の注意事項	個人差を理解することは薬物療法の基本であり、医薬品を有効かつ安全に使用するためには極めて重要である。そのため、個人差を考慮したオーダーメイド医療が医療の一環として行われるようになってくるだろう。また、これらの知識は創薬研究においても極めて重要である。したがって、本授業に関する知識を積極的に得るように心がけてほしい。なお、講義中の飲食は禁止する。注意に従わない場合は欠席とする場合もあるので注意して頂きたい。				
連絡先・オフィスアワー	"松永民秀（臨床薬学教育研究センター、研究棟南棟 2F） 月曜日 午後5時～6時（他の曜日・時間も可、在室を確認のこと）				
備考	開講時間は変更する事がある。				
関連URL					

授業科目名	コミュニティファーマシー学特論 Advanced Community Pharmacy Management				
単位数	1 単位	開講時間	水 5 前期(後半)	担当者	鈴木(匡)、中村(克)、菊池
<p>□■ 授業の目的・概要</p> <p>日本の医療保険制度の変遷に伴い保険薬局業務は大きく変化してきた。特に近年では医薬分業に伴う調剤業務が大きなウエイトを占めるようになってきている。一方、医療費削減が急務となっている現在、薬局薬剤師によるセルフメディケーションや在宅医療への貢献が期待されている。このような社会的ニーズに的確に対応するために薬局業務はどうあるべきなのか、地域に密着して社会に貢献する薬局薬剤師活動とは今後どうあるべきなのか、現状を分析し考察する。</p>					
<p>□■ 学習到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本の医療制度の変遷と薬局業務の変化について説明できる。 2) 保険による調剤報酬の仕組みと課題について説明できる。 3) 薬局での保険調剤業務の薬学的管理・経済的管理について対応できる。 4) 薬局でのセルフメディケーション・在宅支援の現状と課題を説明できる。 5) 薬局薬剤師の生涯研鑽、薬局実務実習での指導、薬局業務を科学的に分析する学術能力の必要性について論ずることができる。 					
<p>□■ 授業概要</p> <p>日本の医療制度と薬局業務の変遷、調剤報酬の改正に伴う影響などをまず概説し、最新の薬局業務や薬局薬剤師業務を紹介して今後の薬局のあり方について考察する。</p> <p>さらに、セルフメディケーションや在宅医療など薬局で今後推進しなければならない課題に対応するために必要な知識や能力とそれを修得するための方策について考察・討論する。</p> <p>本講義は、講師による講義を60分程行った後、小グループによる討論を行う。グループ討論の結果を発表し、その成果をレポートとして提出する。</p>					
<p>□■ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 現在の薬剤師業務の課題と今後（薬学実務実習を通して考える） 2) 日本の医療制度の変遷と薬局業務の変化 3) 保険薬局業務①：薬局での保険調剤業務の薬学的管理・経済的管理 4) 保険薬局業務②：薬局でのセルフメディケーションの現状と課題 5) 保険薬局業務③：在宅医療を支援する薬局薬剤師業務の現状と課題 6) 薬局薬剤師①：薬局薬剤師のための生涯研鑽：新しい学習法の導入 7) 薬局薬剤師②：薬局業務を科学的に分析する臨床研究の立案 					
成績判定基準	平常点（20%） レポート（80%）				
教科書・テキスト					
参考文献					
履修要件					
履修上の注意事項	本講義は、実際の薬局業務を考察・研究することを目標としているので、書物や資料だけでなく、多くの薬局を実際に訪問し、薬局業務やそこで働く薬局薬剤師をよく観察して討論やレポートに対応して欲しい。				
連絡先・オフィスアワー	担当：鈴木 匡（臨床薬学分野 研究棟南棟2階） オフィスアワー 火曜日13時～16時（他の曜日可。在室を確認のこと）				
備考					
関連URL					

授業科目名	病院臨床薬剤学特論 Advanced Laboratory of Hospital Pharmacy				
単位数	1 単位	開講時間	水 1 後期(前半)	担当者	木村、前田、堀田
<input type="checkbox"/> ■ 授業の目的・概要 臨床薬剤師のチーム医療における役割を具体的に紹介する。近年、薬剤師の業務は細分化しその専門性が問われている。本特論においては、がん領域・感染症領域・緩和医療・NST(Nutrition Support Team)・救急医療・ICU/NICU において臨床薬剤師がどのようにその職能を発揮しているかを紹介し、将来の薬剤師のあるべき姿を提示する。					
<input type="checkbox"/> ■ 学習到達目標 1. 病院薬剤師のチーム医療内での役割を理解する。 2. 専門薬剤師の業務を理解する。 3. がん化学療法および緩和医療に用いる薬剤の使用方法を習得する。 4. 臨床治験と医師主導臨床研究					
<input type="checkbox"/> ■ 授業概要 病院における薬剤師の業務を概説する。専門薬剤師の種類・資格について概説する。がん化学療法を臓器別に説明し、使用される薬剤の作用・合併症について説明する。TDM に関する基本的な知識を概説する。					
<input type="checkbox"/> ■ 授業計画 1. 病院薬剤師の業務 2. 専門薬剤師のチーム医療における役割 3. がん化学療法の薬物治療(内科系) 4. がん化学療法の薬物治療(外科系) 5. 院内感染と感染制御 6. PK/PD 理論の応用 7. 病院における臨床研究					
成績判定基準	授業への出席状況や参加態度、授業中に課したレポートの評価などを総合して行う。				
教科書・テキスト	講義ごとに参考資料を配布し、受講時に学習すべき論文を指示したりする。				
参考文献	受講時に学習すべき論文を指示する。				
履修要件	臨床研究に興味を持ち、将来、患者のために働きたい学生を希望する。				
履修上の注意事項	講義中に活発な質疑応答を希望する				
連絡先・オフィスアワー	研究室：南研究棟 1 階病院薬剤学分野 木村 和哲 薬剤部：名古屋市立大学病院 薬剤部 薬剤部長室 (平日)8:30-18:00 薬剤部, 19:00-(事前に在室を確認のこと)				
備考					
関連 URL					

授業科目名	医薬品安全性評価学特論 Advanced Medicinal Safety Science				
単位数	1 単位	開講時間	木 4 前期 (後半)	担当者	頭金、長部
<p>□■ 授業の目的・概要</p> <p>医薬品の適正使用にとって安全性を正確に評価することは極めて重要になる。そこで、本特論では、医薬品の開発研究、承認審査、市販後調査での安全性評価に関する方法論を紹介すると共に、医薬品による副作用についての代表的な症例や発生事例、研究例を通じて、医薬品安全性評価に関する理解を深める。</p>					
<p>□■ 学習到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の開発研究、承認審査および市販後における安全性評価の概要を理解する。 2. 代表的な重篤副作用の概要を理解する。 3. 過去に重大な社会問題となった副作用の事例を知る。 4. 副作用に関する代表的な研究例を理解する。 					
<p>□■ 授業概要</p> <p>医薬品の安全性を評価する方法や体系的な重篤副作用について概説するとともに、過去に発生した副作用事例を紹介する。また、新薬の開発段階における各種試験データを題材にして、市販後の調査研究についてセミナー形式の討論を行い、医薬品の安全性評価に関する理解を深める。</p>					
<p>□■ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の開発研究における安全性評価 (非臨床試験) 2. 医薬品の開発研究における安全性評価 (臨床試験) 3. 市販後における安全性評価 4. 代表的な重篤副作用 5. 副作用事例研究 6. 副作用の回避を目指した研究 (オミックス研究) 7. 副作用の回避を目指した研究 (薬剤疫学研究) 					
成績判定基準	出席 (30%) とプレゼンテーション (70%) により評価				
教科書・テキスト	講義ごとに参考資料を配布する。				
参考文献	受講時に学習すべき参考書や文献を指示する。				
履修要件	レギュラトリーサイエンス研究を通じて、医薬品の適正使用に貢献したいと考えている学生を希望する。				
履修上の注意事項	担当教員による講義とともに受講学生によるセミナー(プレゼンテーションと討論) も行う。				
連絡先・オフィスアワー	医薬品安全性評価学分野 頭金 正博 木曜日 午後 5 時 - 6 時 (他の曜日・時間も可, 在室を確認のこと)				
備考					
関連 URL					

授業科目名	漢方薬物治療学特論 Advanced Therapeutics of Kampo Medicine				
単位数	1 単位	開講時間	木 4 後期(前半)	担当者	牧野、寺坂
<p>□■ 授業の目的・概要</p> <p>わが国では 9 割以上の医師が漢方薬の使用経験があり、3 割程度の医師が疾患によっては第一選択にしているなど、実際の医療現場で漢方薬が使用される機会が多い。本講義では、漢方薬を用いた薬物療法のエビデンスの評価方法、漢方薬に関する臨床薬理、漢方薬の適正使用について講義する。</p>					
<p>□■ 学習到達目標</p> <p>(1) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。 (2) 漢方薬を用いた薬物療法におけるエビデンスを評価できる。 (3) 漢方医学が得意とする疾患について、適切な漢方薬を提案できる。</p>					
<p>□■ 授業概要</p> <p>授業では、これまで知られている漢方薬を用いた薬物療法のエビデンスと、漢方薬を用いた臨床薬理研究のデザイン方法を紹介するほか、漢方医学が得意とする疾患に関する症例を提示して処方選択方法について解説する。</p>					
<p>□■ 授業計画</p> <p>(1) 現代医療における漢方薬の役割 (2) エビデンスに基づいた漢方薬物治療学 1～消化器疾患 (3) エビデンスに基づいた漢方薬物治療学 2～婦人科疾患、精神・神経科疾患 (4) エビデンスに基づいた漢方薬物治療学 3～循環器系疾患 (5) 症例検討 (6) 漢方薬に関する医薬品情報活動 (7) 漢方薬に関する臨床研究デザイン方法</p>					
成績判定基準	すべての講義の終了後に提示する課題に対するレポートによって評価する。				
教科書・テキスト	使用せず。適宜、プリントを使用する。				
参考文献					
履修要件					
履修上の注意事項	本年度は開講しないことがある				
連絡先・オフィスアワー	牧野 利明 研究棟南館 3 階 生薬学分野教授室 とくに指定しない。在室していればいつでも可				
備考					
関連 URL					

授業科目名	ストレス応答制御学特論 Advanced Stress Response Cellular Biology				
単位数	1 単位	開講時間	集中講義	担当者	林、井上、伊藤(友)
<p>□■ 授業の目的・概要</p> <p>近年、内因性の異常タンパクや活性酸素、環境由来のウイルスや毒性物質などに対する細胞の適応応答が注目を浴びている。興味あることに、この様なストレス応答は、内因性・外因性を問わず、多様なストレス分子に共通したセンサー蛋白質を介してセンシングされ、その下流の固有のシグナル伝達と転写経路を活性化することにより精密に制御されている。本講義では、DNA 傷害ストレス、小胞体ストレス、酸化ストレスをはじめとする細胞ストレス応答の分子メカニズムを、ストレス応答異常により発症する疾病の病因論も含めた最新の知見をご紹介しながら、今後の展望を多面的に議論する。</p>					
<p>□■ 学習到達目標</p> <p>様々な環境変化、あるいは内因性の異常に対して細胞や個体はどのように適応応答を行って恒常性を維持しているかを理解するとともに、その正常な応答機構の破綻により、どのような異常、さらには疾患に結びつくかを学習し、その治療法についても修得する。</p>					
<p>□■ 授業概要</p> <p>様々な外的、あるいは内的のストレスに対して、細胞や個体がどのような対応をし、その分子メカニズムについて詳述する。また、その調節の破綻の機序から、破綻による疾患の発症糧について後述する。さらに、そのような疾患の治療方法、治療計画の現在と未来についても述べる。</p>					
<p>□■ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ストレス応答概論 2. 物理的ストレスに対する応答とその異常 3. 小胞体ストレスに対する応答とその異常 4. 酸化ストレスに対する応答とその異常 5. genotoxic ストレスに対する応答とその異常 6. 炎症・感染に対する応答とその異常 7. 栄養飢餓・栄養過多ストレスに対する応答とその異常 					
成績判定基準	出席とレポート提出による成績評価				
教科書・テキスト	プリントを配布				
参考文献					
履修要件					
履修上の注意事項					
連絡先・オフィスアワー	担当：林 秀敏（医薬品代謝解析学分野：研究棟南館 6 階） オフィスアワー：木曜日 午後 4 時～6 時（他の曜日・時間でも可、在室を確認のこと）				
備考					
関連 URL					

授業科目名	分子機能薬理学特論 Advanced Biomolecular Pharmacology				
単位数	1 単位	開講時間	集中講義	担当者	今泉、山村、鈴木(良)
<p>□■ 授業の目的・概要</p> <p>イオンチャネル・イオントランスポーターの生体機能分子の働きと各種疾患の関連を理解し、さらに治療薬の開発や新たな薬物治療法の開発に必要とされる主に細胞・分子レベルでの最新薬効解析技術と理論を理解することにより、受講者が自身の臨床薬学研究への応用や新たな着想を得られる素地を作る。</p>					
<p>□■ 学習到達目標</p> <p>1. 特定の疾患関連分子としてのイオンチャネル・イオントランスポーターの分子機能の概略について説明できる。</p> <p>2. 薬物治療標的としてのこれら生体機能分子への作用薬物の最新薬効解析技術と理論の概略を説明できる。</p>					
<p>□■ 授業概要</p> <p>重要な疾患の原因となる、あるいは病態の進行に関わる生体機能分子としてのイオンチャネル・イオントランスポーターについて、その機能を解説し、薬物治療標的としての重要性や可能性について理解を進める。特に新しい疾患モデルとそれに対する解析手法により解明されたこれら生体分子の病態における重要性、薬物治療標的としての可能性について論ずる。</p>					
<p>□■ 授業計画</p> <p>以下の7回を今泉、山村、鈴木が分担する。</p> <p>1. 特定の疾患病態に関連するイオンチャネル・イオントランスポーターの概説</p> <p>2. 心疾患における薬物治療標的としてのイオンチャネル等の発現・機能異常</p> <p>3. 脈管系疾患における薬物治療標的としてのイオンチャネル等の発現・機能異常</p> <p>4. 神経系疾患における薬物治療標的としてのイオンチャネル等の発現・機能異常</p> <p>5. 消化器系疾患における薬物治療標的としてのイオンチャネル等の発現・機能異常</p> <p>6. 泌尿器・呼吸器系疾患における薬物治療標的としてのイオンチャネル等の発現・機能異常</p> <p>7. イオンチャネル標的創薬概説</p>					
成績判定基準	講義毎の小テスト 50% レポート 50%				
教科書・テキスト	講義毎に適宜プリント配布				
参考文献					
履修要件					
履修上の注意事項					
連絡先・オフィスアワー	担当： 今泉祐治（細胞分子薬効解析学分野 研究南棟 5F） オフィスアワー： 金曜日 午後 3 - 5 時（他の曜日、時間も可。在室を確認のこと）				
備考					
関連 URL					

授業科目名	分子神経科学特論 Advanced Molecular Neuroscience				
単位数	1 単位	開講時間	水 4 後期(前半)	担当者	服部、築地、河野
<input type="checkbox"/> ■ 授業の目的・概要 脳機能の破綻は非常に重篤な疾患引き起こす。それらに多くに対して、依然として治療法は限られているが、近年、分子レベルおよび遺伝子レベルにおける脳の理解は飛躍的に進んできた。本特論では現代の神経科学を概説し、その研究手法および代表的な成果について講義する。					
<input type="checkbox"/> ■ 学習到達目標 遺伝子改変技術を用いた脳機能解明法を理解する。 神経細胞の動態に影響する分子および遺伝子について理解する。 精神神経疾患の最新の治療法に関する試みについて理解する。					
<input type="checkbox"/> ■ 授業概要					
<input type="checkbox"/> ■ 授業計画 1. 神経変性疾患の分子メカニズム 2. 精神神経疾患研究における遺伝子改変技術の寄与 3. 神経回路形成の分子基礎 4. 神経再生による疾患治療の試み 5. 神経変性疾患の新規治療法 6. 記憶の形成機構とその異常 7. 神経幹細胞とその利用					
成績判定基準	毎回講義後に行う小レポート 100%				
教科書・テキスト	なし。プリント等を適宜配布する。				
参考文献					
履修要件					
履修上の注意事項					
連絡先・オフィスアワー	服部光治（病態生化学分野、薬学研究科研究棟南館 5 階） 金曜日午後 4 時～午後 5 時				
備考					
関連 URL					

授業科目名	臨床薬物動態学特論 Advanced Biopharmaceutics and Clinical Pharmacokinetics				
単位数	1 単位	開講時間	水 5 後期(前半)	担当者	湯浅、太田
<input type="checkbox"/> ■ 授業の目的・概要 <p>薬物動態学及び関連分野の専門的知識を習得し、薬物療法に関わる研究活動の基盤とする。</p>					
<input type="checkbox"/> ■ 学習到達目標 <p>薬物動態学及び関連分野の専門的知識の習得。</p>					
<input type="checkbox"/> ■ 授業概要 <p>薬物の作用部位到達性を支配する体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）のメカニズム及び評価・解析法を解説する。各種体内動態過程に関わる <i>in vitro</i> 試験レベルから <i>in vivo</i> 体内動態レベルまでの情報を統合的に体系化する方法論及び体内動態予測法についても解説し、最適な投薬計画の立案から実践・検証までを的確に実施する方法を学ぶことのできるプログラムとする。また、関連分野を含めて、薬物療法に関わる研究や技術開発の動向を紹介する。</p>					
<input type="checkbox"/> ■ 授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 薬物動態総論/薬物動態の評価：基礎 2 薬物動態におけるトランスポーターの役割 3 薬物動態の評価：応用 1 4 薬物動態の評価：応用 2 5 薬物動態の予測：分布と消失 6 薬物動態の予測：吸収 7 薬物動態の評価と予測：総合演習 					
成績判定基準	期末レポート： 100%				
教科書・テキスト	配布資料				
参考文献	配布資料				
履修要件	なし				
履修上の注意事項	なし				
連絡先・オフィスアワー	湯浅博昭（薬物動態制御学分野、薬学研究科研究棟北館 4F） 月曜日 午後 4 時 30 分 - 5 時 30 分（他の曜日・時間も可、在室を確認のこと）				
備考					
関連 URL	http://www.phar.nagoya-cu.ac.jp/hp/yzg				

授業科目名	臨床病態治療学特論 Advanced Pathobiology and Pharmacotherapy in Pharmaceutical Practice				
単位数	1 単位	開講時間	水 3 後期(前半)	担当者	樋本、岩城
<p>□■ 授業の目的・概要</p> <p>基本的な疾病の病態を解析し、病気の成り立ちと病気を制御するシステムへの理解を深める。本邦で著明に増加している生活習慣病、老化疾患などの諸種疾患の生理、生化学的機能の変化、発生原因および病態が進展する機序を病態解析学分野における最近のデータをまじえて解説する。さらに、それらの疾患を対象とする病態解析を踏まえた薬物治療の実践について、病態機能、薬物作用の観点から取り扱う。生活習慣や加齢が関わる多様な領域における臨床、診断、薬物治療法に関する最新の知識と研究の動向を理解する。</p>					
<p>□■ 学習到達目標</p> <p>疾病発生の基盤となる病態の深い理解と、大規模臨床試験の知見もふくめた最近の新しい医薬品を用いた薬物治療法の総合的理解に基づき、質の高い薬物治療に貢献できる医療人あるいは脳/心血管領域での探索的臨床研究や治験等で活躍しうる人材となることをめざす。</p>					
<p>□■ 授業概要</p> <p>生活習慣病、老化疾患の病態を理解し、薬物治療に関する最近の研究動向を学ぶ。新しい医薬品を用いた治療法の開発、ならびに治療介入に関する研究で重要となるポイントについて解説する。</p>					
<p>□■ 授業計画</p> <p>動脈硬化性疾患の病態解明と新しいバイオマーカーを利用した最近の薬物治療 脂質異常症の病態と最近の薬物治療の進歩 血栓症の病態と新規抗血栓薬の開発状況 高血圧症の病態と合併症、ガイドラインにもとづいた最新薬物療法 スフィンゴ脂質生物学と関連する疾患の病態解明、医薬品開発への展開 分子病態より見た日本人糖尿病の特徴と合併症 糖尿病の病態をベースとした最近の薬物治療、患者教育と日本型生活習慣への介入</p>					
成績判定基準	授業への出席状況や参加態度、授業中に課したレポートの評価などを総合して行う。				
教科書・テキスト	展開は講義ごとに若干異なるが受講時に学習すべき論文を指示したり、資料が配布されることもある。				
参考文献	受講時に学習すべき論文を指示する。				
履修要件	疾患の成因や病態生理の解明、人、特に患者を対象とした基礎研究の橋渡し研究や新しい医薬品の開発と治療法の幅広い展開に興味を持つ学生が望ましい。				
履修上の注意事項	事前に機能形態学、薬理学、病態生理学の基本的な考え方や知識を再学習しておくことと授業の理解が深まると考えられる。授業中の私語や出入りは慎むこと。				
連絡先・オフィスアワー	研究室： 南研究棟 6階病態解析学分野 (月)16:00-17:00 (他の曜日時間も可能、事前に在室を確認のこと)				
備考					
関連URL	http://www.phar.nagoya-cu.ac.jp/hp/szg/index.html				

授業科目名	疼痛緩和医療薬学特論 Advanced Pharmacotherapeutics - palliative care for cancer patients -				
単位数	1 単位	開講時間	集中講義	担当者	糸、大澤、山本
<input type="checkbox"/> ■ 授業の目的・概要 がん患者では約 8 割の人が中度から重度の痛みを持つ。痛みにはがん自体が原因となるもの、がん治療が原因となるもの、がんによる衰弱などが原因となるもの、併発症によるものなどがある。がん患者の痛みを取り除くことで患者の QOL は向上し、さらに延命効果があり、あるいは痛みのない状態で死期を迎えることができる。本特論では緩和ケア概論、オピオイド性・非オピオイド性鎮痛薬および鎮痛補助薬の作用機序、痛みの評価法、WHO 方式がん疼痛治療法などについて論ずる。					
<input type="checkbox"/> ■ 学習到達目標					
<input type="checkbox"/> ■ 授業概要 がん患者の終末期に訪れる苦痛を緩和できる適切な治療法を選択するために、1) 痛みの概念 2) 痛覚伝達系 3) 疼痛緩和に用いる薬物の作用機序と、その臨床における使用法について講義を行う。					
<input type="checkbox"/> ■ 授業計画 1. 緩和ケア概論 2. 痛覚系概論 3. 鎮痛薬各論 1 (オピオイド性鎮痛薬) 4. 鎮痛薬各論 2 (非オピオイド性鎮痛薬) 5. 鎮痛補助薬各論 6. 緩和ケアにおける副作用対策 7. 疼痛緩和薬物の実用例					
成績判定基準	出席 (50%) と提出レポート (50%) により評価				
教科書・テキスト	プリント配布				
参考文献					
履修要件					
履修上の注意事項					
連絡先・オフィスアワー	神経薬理学分野 糸 和彦 月曜日 午後 3 時 - 4 時 (他の曜日・時間も可, 在室を確認のこと) 担当教員へ連絡				
備考	本年度は開講しない。				
関連 URL					

授業科目名	生命倫理特論				
単位数	1単位	開講時間	1年前期(前半) 木曜5限	担当者	藤井(聡)、松永、 非常勤講師
<p>□■ 授業の目的・概要</p> <p>創薬研究を志すための基本的スタンスとして生命倫理と医療倫理の必要性と重要性を学ぶ。また、高度先進医療の進歩に伴い生じる倫理的問題を考え、薬が社会に与える影響の理解を通じて創薬が果たす社会貢献の本質的な重要性を学ぶ。薬害と薬事行政の関連など創薬に関する問題を倫理的視点から考えることを学ぶ。</p>					
<p>□■ 学習到達目標</p> <p>基盤創薬学研究者として生命倫理と医療倫理について十分な知識をもち、創薬というマクロな視野に立って、意思決定ないし合意形成のプロセスの問題を中心に倫理を考えうる能力と態度を備える。</p>					
<p>□■ 授業概要</p> <p>新規医薬品候補化合物の創製から第IV相の治験まで創薬スタッフには高い倫理性が要求される。生命の尊さ、医療現場での倫理の重要性を理解するために、具体例や課題を提供して討議する。近年、生命を操作する科学技術が飛躍的に高度化してきていることに伴う倫理的問題を現実的に理解する。薬と人や社会の関係をマクロな視野で見渡し、創薬研究・医薬品創製から臨床現場まで各ステージにおける心構えや態度を学ぶ。また、社会情勢が健康の質に与える影響など、薬と社会との関わりを理解し、薬害など多岐にわたる観点から薬に関する諸問題を倫理的に考え、創薬の果たす社会的意義や倫理的問題を討議する。</p>					
<p>□■ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の誕生、生殖医療、着床前診断、出生前診断・選択的中絶における生命倫理・医療倫理 2. 終末期医療、生命の維持と安楽死に関わる生命倫理 3. 先端的診断法、治療法に関わる倫理的問題 4. 受精卵・胚を用いた研究、生殖細胞系列遺伝子操作、クローン技術と生命倫理 5. 医療介護と医療格差、生活の質に関わる倫理的諸問題 6. 医薬品の創製から臨床開発IV相実施における基準と倫理 7. 医薬品開発の歴史と薬害、薬事行政 8. 総括 					
成績判定基準	出席点10点、レポート90点で合計100点満点とし、60点以上を合格とする。				
教科書・テキスト					
参考文献	必要に応じて参考資料を配布する。				
履修要件					
履修上の注意事項					
連絡先・オフィスアワー					
備考	生命倫理、医療倫理に関するテーマは定説が確立しているものはそう多くはない。履修者は、配布される参考資料に書かれたこと、あるいは担当者が語ったことを覚えるよう努めるのではなく、提起される問題を自ら担当者とともに考え積極的に討議するというスタンスで受講していただきたい。				
関連URL					

授業科目名	医療機能薬学特別研究 Advanced Studies in Experimental and Clinical Pharmaceutical Sciences
単位数	1 2 単位
□ ■ 授業の目的・概要	医療機能薬学領域の研究を実践し、専門的知識・技術を活用・応用する能力の養成を図る。
□ ■ 学習到達目標	医療機能薬学領域の研究遂行能力の養成。
□ ■ 授業概要	医療機能薬学領域の研究課題を設定し、専門的知識・技術を活用・応用しながら研究活動を行い、論文を作成する。
□ ■ 授業計画	医療機能薬学領域の研究課題を設定し、研究を行う。
成績判定基準	論文及び口頭発表（質疑応答を含む）： 100%
教科書・テキスト	配布資料
参考文献	配布資料
履修要件	なし
履修上の注意事項	なし
連絡先・ オフィスアワー	各分野の指導教員 各分野の指導教員の指定する時間
備考	なし
関連URL	

授業科目名	医療機能薬学特別演習 Advanced Seminar in Experimental and Clinical Pharmaceutical Sciences
単位数	10単位
□■ 授業の目的・概要	医療機能薬学領域の学術動向を把握し、情報の論理的分析及び討論をする能力の養成を図る。
□■ 学習到達目標	医療機能薬学領域の情報収集・分析能力の養成。
□■ 授業概要	医療機能薬学領域の先端的研究の情報を収集・分析し、報告と討論を定期的に行う。
□■ 授業計画	医療機能薬学領域の演習を行う。
成績判定基準	口頭発表（質疑応答を含む）及び討論（参加態度）： 100%
教科書・テキスト	配布資料
参考文献	配布資料
履修要件	なし
履修上の注意事項	なし
連絡先・オフィスアワー	各分野の指導教員 各分野の指導教員の指定する時間
備考	なし
関連URL	

●コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コースの履修

1. コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コースの趣旨

薬学研究科博士課程にコミュニティ・ヘルスケア指導者養成コースを設置する。本コースは、今後予想される病院から在宅への医療ニーズの急速なシフトを、単なる高齢化対策ではなく、未来医療への新しいトレンドとして位置づけ、エイジング・イン・プレイス(AIP)社会の実現および医学・医療の発展と向上を担うコミュニティ・ヘルスケア指導者の養成を目的としている。本コースの修了者は、多職種協働による在宅ケア、認知症ケア、緩和・終末期ケア、コミュニティとの協働による地域包括ケアのコーディネーターを含む超高齢社会の多様なニーズに対応し、かつ、未来医療のデザインや開発に貢献することが期待されている。

なお、本コースは、大学院横断型教育プログラムとしての位置づけが検討されており、名古屋市立大学医学研究科・薬学研究科・看護学研究科、名古屋工業大学工学研究科の協力によって運営されている。

2. コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コースの授業科目・単位数・開講時期および担当研究科

授業科目	単 位 種 別	単 位 数	開 講 時 期	担 当 研 究 科
地域包括ケアシステム学特論	A	2	1年次前期	看護学研究科
緩和・終末期ケア学特論	A	2	1年次後期	医学研究科
総合認知症学特論	A	2	1年次前期	医学研究科
未来医療デザイン特論	B	2	1年次通年	医学研究科
医療 ICT 管理学	B	2	1年次前期	名古屋工業大学 大学院工学研究科
コミュニティ創成特論	B	2	1年次後期	名古屋工業大学 大学院工学研究科
コミュニティ・ヘルスケア実習	B	1	1年次後期	看護学研究科
緩和・終末期ケア学演習	B	1	2年次通年	看護学研究科
緩和・終末期ケア実習	B	2	2年次通年	看護学研究科
総合認知症学演習	B	1	2年次通年	看護学研究科
認知症ケア実習	B	2	2年次通年	看護学研究科
臨床マスタープログラム	B	5	2年次通年	医学研究科

3. コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コースの履修方法

1) 履修要件

原則として、医師、薬剤師、看護師、理学療法士等の医療福祉系の免許を有する者とする。

2) 履修方法および修了要件

「コミュニティ・ヘルスケア指導者養成科目」の単位種別 **A** を 6 単位および単位種別 **B** から 4 単位以上、合計 10 単位以上をコミュニティ・ヘルスケア指導者養成コースの修了要件とする。

一部の科目は集中講義として開講され、開講日・開講場所・受講方法などは掲示またはポータルサイトで連絡されるため、留意する。また、指定の日時・場所で受講できない場合は、別に定める方法で、別途、受講することもできる。

なお、本コースの授業科目の一部は、薬学研究科博士課程の修了に必要な単位と認められる場合がある。希望者は指導教員および事務室に申し出ること。

3) 履修手続き

履修を希望する学生は、指導教員に相談して許可を得た後に、別に定めるところにより履修手続を行うものとする。

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(名古屋市立大学 大学院薬学研究科 医療機能薬学専攻)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
講 義 科 目	個人差・オーダーメイド医療薬学特論	1～4	1			○			1	1	1			
	コミュニティファーマシー特論	1～4	1			○			1		1			
	病院臨床薬剤学特論	1～4	1			○			1		1	2		
	医薬品安全性評価学特論	1～4	1			○			1			1		
	漢方薬物治療学特論	1～4		1		○			1			1		
	ストレス応答制御学特論	1～4		1		○			1	1		1		他専攻の兼任
	分子機能薬理学特論	1～4		1		○			1	1		1		
	分子神経科学特論	1～4		1		○			1		1	1		
	臨床薬物動態学特論	1～4		1		○			1			1		
	臨床病態治療学特論	1～4		1		○					1			
	疼痛緩和医療薬学特論	1～4		1		○			1	1		1		
	生命倫理特論	1～4		1		○			1					他講義の兼任
小計（12科目）			4	8	0			—	11	4	5	9	0	—
特別演習・特別研究	医療機能薬学特別演習	1～4通	10				○		10	4	5	9		
	医療機能薬学特別研究	1～4通	12					○	10	4	5	9		
	小計（2科目）	—	22	0	0			—	10	4	5	9	0	
合計（14科目）		—	26	8	0			—	11	4	5	9	0	
学位又は称号		博士（薬学）		学位又は学科の分野				薬学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
◆講義科目：必修科目4単位及び選択科目4単位（合計8単位）以上 ◆特別演習：所属する分野の特別演習を10単位必修 ◆特別研究：所属する分野の特別研究を12単位必修 ◆必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出し、その論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。								1学年の学期区分				2学期		
								1学期の授業期間				15週		
								1時限の授業時間				90分		

履修モデル：

医療機能薬学専攻の一例

科目分類	科目名	履修時期	単位数
講義科目	医薬品安全性評価学特論	1年前期後半期	1
	疼痛緩和医療薬学特論	1年前期後半期	1
	個人差・オーダーメイド医療薬学特論	1年後期前半期	1
	コミュニティファーマシー特論	1年後期前半期	1
	病院臨床薬剤学特論	1年後期前半期	1
	ストレス応答制御学特論	2年前期後半期	1
	分子機能薬理学特論	2年前期後半期	1
	分子神経科学特論	2年後期前半期	1
特別演習	医療機能薬学特別演習	1～4通年	10
特別研究	医療機能薬学特別研究	1～4通年	12
合計			30